

# 小学校における児童の表現力を豊かにする効果的な音楽授業法の研究

A Study of Effective Music Teaching method Increase Expressiveness of Children  
in Elementary School

新村元植\*・上野久美\*\*  
Genshoku Shimmura, Kumi Ueno

\*鹿児島女子短期大学      \*\*鹿児島市立山下小学校

抄録：平成23年度から改訂実施された小学校学習指導要領では、「生きる力」の育成に加え、知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等における育成におけるバランスを重視することが基本的ねらいとされている。そこで「感情表現を陶冶する効果的な音楽授業の試み」(2011)(南地研所報第27号)では、感情を表現する能力を自ら高めることを目的とする、楽器を使用した効果的な授業法を考察した。今回はさらに器楽用いた教材を工夫し、児童の思いや願いを大切にしたい効果的で汎用的なアクティブラーニング型授業法を考察した。その結果、教師と児童は教科書の器楽合奏教材を基に、積極的に学習効果のある授業活動を展開した。そして、6時限の音楽授業を実施した児童のアンケートでは、ほとんどの児童は充実した時間を過ごし、その他の結果として周囲と協力して器楽合奏を成功させる学習体験を得たことがわかった。

**Key words**：音楽授業、器楽、表現力、アクティブラーニング

## はじめに

小学校音楽授業における表現力陶冶の研究は、「鹿児島市立小学校における管楽器教育の可能性」(2006)、「鹿児島市立小学校における管楽器教育の可能性(2)」(2008)、「感情表現を陶冶する効果的な音楽授業の試み」(2011)に続き、第4報になる。まず、「鹿児島市立小学校における管楽器教育の可能性」(2006)では、新教育指導要領で年間学習時間数が約2/3になった音楽授業においては、どのような活動実態があるのかを調査し、音楽授業への管楽器導入の可能性を探った。まず、小学校において、可能である管楽器の授業についてその意義を考察し、次に鹿児島市立小学校や他地域の授業事例を詳細に考察した。これらの考察を通して、児童が管楽器に興味を示していることに比較して、授業全体の中で管楽器を導入した授業の割合は少なく、今後においてはさらに導入の工夫が必要であることを提言した。次に「鹿児島市立小学校における管楽器教育の可能性(2)」(2008)では、実際に金管管楽器を導入した授業を提案し、実施することにより、児童の興味関心を引き出すことが出来る授業であったことを検証することが出来た。そして、「感情表現を陶冶する効果的な音楽授業の試み」(2011)では、小学校音楽科の器楽授業において児童が表現する能力を自ら高めることが出来る効果的な授業法の開発を考察した。そして本稿では、さらに器楽を用いた音楽授業において、多様な楽器を導入することにより、効果的な音楽表現を陶冶する音楽授業を考察した。

## 研究方法

- ①鹿児島市立山下小学校において、音楽教科担当教諭と協同して、研究課題に沿った音楽授業を実施する。
- ②研究授業実施後に児童を対象にしてアンケートを実施し、児童の達成感や興味関心等を考察する。
- ③小学校音楽科における器楽を使用した効果的な授業法について考察する。
- ④研究分担

- ・研究授業企画、計画作成及び授業実施：鹿児島市立山下小学校 上野久美教諭
- ・研究授業企画及び授業分析：鹿児島女子短期大学 新村元植

## I. 児童のモチベーションを高める汎用的音楽授業

昭和22年（1947年）に運用が開始された学習指導要領は、平成20年（2008年）で第8次の改訂学習指導要領になる。この改訂では新たに小学校低学年から高学年までの歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞の各領域活動に共通する指導内容を「共通事項」として示した。小学校学習指導要領音楽編（以下音楽編）においては、「[共通事項]」について、「音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みを聴き取り、それらの働きによって生み出される音楽的な面白さやよさを感じ取ること。」と記述されている。その内容は以下の通りである。

〔共通事項〕

(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。

ア 音楽を形づくっている要素のうち次の（ア）及び（イ）を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取ること。

（ア）音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なり、音階や調、拍の流れやフレーズなどの音楽を特徴付けている要素

（イ）反復、問いと答え、変化などの音楽の仕組み

イ 音符、休符、記号や音楽にかかわる用語について、音楽活動を通して理解すること。

また、音楽編の「各学年の目標及び内容」では、「目標」において、第1学年及び第2学年（低学年）の「(1) 楽しく音楽にかかわり、音楽に対する興味関心をもち、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる。」から、第3学年及び第4学年（中学年）では「(1) 進んで音楽にかかわり、音楽活動への意欲を高め、音楽経験を生かして～以下同文。」に変わっている。さらに第5学年及び第6学年（高学年）では、「(1) 創造的に音楽にかかわり、音楽活動への意欲を高め、音楽経験を生かして～以下同文。」という指導目標を示している。これは、音楽授業の中で「楽しく」から「進んで」、さらに「創造的」に音楽にかかわることを小学校音楽での目標としているのである。そして、この中で最も重要視されることは、中学年での音楽授業が自ら進んで音楽に親しむ態度をねらいとしていることである。これは、低学年での音楽授業が自らの感情を表現出来る授業教材が多く、教師の指導も児童のモチベーションを基に指導しやすい授業であることを基にしている。また、音楽編の第3章各学年の目標及び内容「A表現」(2) では、「音楽を感じ取って器楽の表現を工夫する能力、楽曲に合った表現能力、音を合わせて演奏する能力を育てていくことが指導のねらいとなる。」（抜粋）としている。この中学年での音楽指導において、指導目標である「進んで音楽にかかわる態度や意欲を高める」には、教師の言語表現能力を含めた授業スキルや児童の音楽的興味関心に合った授業内容が、より必要になってくる。高学年では、さらに高度な内容を指導出来る授業指導力が必要である。また、中学年での授業運営がうまく行かないと高学年での児童のモチベーション維持が難しくなり、授業運営が困難になることが考えられる。そこで本稿では4年生の教科書教材を基にして、児童の授業へのモチベーション高める事を目的の一つとした、さらに進化した器楽授業を考察した。

## II. 器楽指導における教師の悩み

教員養成大学での音楽教科指導については、音楽編の理論的指導と歌唱指導を中心にカリキュラムが組まれている大学が多い。これは、学生に対する一斉教授指導がしやすく、何よりも効率的な授業が計画できるからである。また、学生に対する声楽も含めた、個々の専攻楽器についても指導が行われているが、音楽授業で指導しなければならない「A表現」領域における器楽分野の指導については、大学の限られた授業時数で十分な指導が行われているとは言えない。音楽大学や教育養成大学において音楽を専攻する学生は、各自の専攻する楽器について、技術を習得しようとする個人や集団のレッスンはカリキュラムとして存在する。しかし、音楽授業における限られた楽器と時間の中で器楽合奏を実施する学修活動については、大学における教科音楽の教育法授業だけでは器楽授業法の十分な時間数を確保できず、取り扱いが難しい現状がある。本短期大学で筆者が担当する小学校音楽科教育法では、学生が作成した学習指導案に基づく模擬授業を実施している。この授業においても「A表現」領域の歌唱分野における指導力向上がねらいであり、器楽合奏を指導する模擬授業は理論的授業としては取り扱うが、模擬授業としての取り扱いが十分に出来ない現状がある。特に小学校教員養成課程のカリキュラムについては、国語（書写を含む。）、社会、算数、理科、生活、音楽、図画工作、家庭及び体育の各教科指導法についてもほぼ全て

が必修である教員養成大学が多い。このように修得する教科指導法が多い状況で、器楽指導に関する音楽授業法について、学生時に十分な指導が行われているとは言えない。佐野（2010）は、「大学の教員養成に関する問題提起や提案としては、実際の指導に役立つレッスンや講義を望む声が強い。教職課程における実技関係のレッスン・講義のあり方を問い直す必要がある。また、器楽指導に関しては、授業時間や楽器など様々な制約の中で、いかに効率よい指導を展開するかが大きな課題となっている。そして、歌唱の際にも指摘されたが、ここでも教師の言語表現の豊かさが問われている。どの活動においても、『表現を工夫して』は頻繁に使用される指導言であるが、具体的な内容が示されず、ただ『工夫』が連呼されているケースも少なくない。何をどう工夫するのか、子どもにわかりやすく具体的に示すことは、器楽の学習指導に限らず、重要な課題である。（抜粋）」と述べて若手教師が以下の悩みを抱えていることを指摘している。<sup>1)</sup>

(1) 合奏における諸課題～様々な制約（時間・楽器等）の中で～

- 合奏指導において楽器の数のバランスや調整の仕方、人数の振り分け方がわからない。
- グループでの合奏をする際「表現を工夫して」という時に自分自身の指導が未熟なため、工夫とはどういうことを具体的に伝えられなくて困っている。

(2) 個人差への対応

- リコーダーなど個人差が出やすいものの指導をする際、どうしても個別の指導がしきれない実態がある。TTをやっていた頃はそれがスムーズに行うことができたが、教科指導も1人で担任を持っていると時間も取りにくく、どのようにしたらいいか模索中である。

(3) リコーダー指導

- 全員が初めて手に持ち、ゼロから同じような指導をしているリコーダーなのだが…授業が始まって三か月くらいで少しずつ差が出てきているのが気になる。また、他の学年の合奏では音を止めるルールを徹底しないと、説明が届かないほど音があふれかえってしまう。

(4) 子どもの実態に合った選曲・編曲

- 器楽指導の選曲は難しい。難しすぎても途中で生徒やる気をなくしてしまうだろうし、簡単すぎても達成感がもちにくい。ある程度演奏しやすいフレーズやリズム等の曲で、かつ、演奏するとそれなりの形になる曲を見つけるのはなかなか大変。また、演奏しやすいようにアレンジしたりもするので、そういう技術がある程度身についているとやりやすいように感じる。

(5) 教師自身の経験、知識・技能の不足

- 活動を通してねらいにせまる前に、様々な楽器の扱いでとまどいを感じている。自分の音楽経験とも深く関わっており、専攻以外のことも広く学んでおけばよかったと反省している。これは、課外で任せられる金管バンドについても言えること。
- コードの知識や即興的な演奏技術がないので、なかなか児童個々のニーズに対応できない。

これらの課題について、現在の教員養成大学においては十分な指導が出来ていない状況があり、現場の教師は日々の授業から効果的な教授法を模索し、課題解決を図っているのが現状である。そこで、本稿では実際の授業において実施可能な器楽授業を提案し、日々の授業での課題解決に資した授業法を考察する。

### Ⅲ. 山下小学校の器楽授業

#### 1. 授業実施クラス

山下小学校4年1組は児童数39名で男子児童20名、女子児童19名である。活発な言動のクラスで、教師の言葉によく反応する能動的児童が多い。器楽授業における楽器選定については教師の助言によく従い、意欲を持って表現しようとする児童が多い。

#### 2. 教材について

使用教科書：「小学生の音楽4」（2015）教育芸術社

実施教材の「茶色のこびん」は原曲を「Little Brown Jug」という。アメリカ合衆国で1869年に出版された。日本にはグレンミラー楽団のSwing Jazzとして人気を博した。「小学校の音楽4」では器楽合奏の教材であり、「主旋律を生かしたバランスのよい合奏と響きのよい音を意識して合奏すること」<sup>2)</sup>が求められている。本稿では、教科書に示された楽器に加えて、小学校でも金管バンドや吹奏楽で使用されている金管楽器、木管楽器及びその他の打楽器を用いて、児童が豊かな響きを工夫する器楽合奏を試みる。

### 3. 4年1組音楽科指導計画

- (1) 指導期間：2016年11月4日～12月20日
- (2) 題材名：いろいろな音のひびきを感じ取ろう
- (3) 教材名：「茶色のこびん」～ゆたかな音のひびきを味わいながら演奏しよう～

### 4. 授業の実際

- (1) 第1次（実施日 2016/11/4）

| 主な学習活動  | ●教師の働きかけ ◆評価   |
|---|--|
| <p>「曲の感じをつかみ、主旋律を歌ったり、副次的な旋律を演奏したりする。」</p> <p>1) 「茶色のこびん」を歌ってみよう。</p> <p>2) 器楽演奏CDを鑑賞する。</p> <p>○器楽の演奏を聴いて、合奏曲としての全体の感じをつかむ。</p> <p>○他のスタイルの演奏を聴いて、今後の見通しを持つ。</p> <p>○音楽の感じをつかむ。</p> <p>3) リコーダーの練習。</p> <p>○旋律の演奏に慣れる。</p> | <p>●伴奏やリズムや歌詞の様子に着目するよう促すことで、楽しい感じを味わえるようにする。</p> <p>●楽器の音色や種類に着目して聴くことで、合奏全体の雰囲気をつかえられるようにする。</p> <p>◆全体的な曲の感じをとらえ、合奏に意欲を持っている。</p> |

#### 展開

- 1) 「茶色のこびん」を歌ってみよう。
  - ①「茶色のこびん」の歌詞について内容を理解する。
    - ・教科書を基に教材の視覚的に理解させる。・歌詞の内容について児童の興味関心を引き出す。
  - ②範唱CDに合わせて主旋律を歌唱する。
    - ・歌唱する際の注意について指導する。
- 2) 器楽演奏CDを鑑賞する。
  - ①旋律の重なり、演奏楽器を理解する。
    - ・教科書の楽譜を見て範奏を聴くことにより、音質の違いや各楽器のリズムや音程を理解する。
- 3) リコーダーの練習。
  - ①教師の範奏→児童の練習→児童の合奏→個別指導
  - ②教師が主旋律、児童はリコーダーパートを演奏し、5分程度の練習でリコーダーパートの練習終了。
- 4) 次時の予告。
  - ①教師が教科書と違う合奏を提案して児童に工夫を考えさせる。
  - ②吹奏楽のJazzアレンジCDを鑑賞する。
  - ③鑑賞後の児童は「おしゃれ」「こっちがよい」という感想を述べる。
  - ④次回の音楽授業では合奏について児童の工夫を期待することを告げる。

(2) 第2次（実施日 2016/11/8）

| 主な学習活動   | ●教師の働きかけ ◆評価   |
|--|--|
| <p>「各パートの特徴や役割を理解し、パート分けをする。」</p> <p>1) パートの役割を知って、パートを決めよう。</p> <p>2) 範奏を鑑賞する。</p> <p>○和音や低音を聴きそれぞれの特徴を感じ取る。</p> <p>3) 教科書旋律の各パート人数分けをする。</p> <p>○合奏を工夫する。</p> <p>○バランスのよい合奏をつくる。</p> | <p>●リズム打ちをさせたり、パートごとに聴いたりすることで、主旋律、飾りの旋律、伴奏などの役割を理解できるようにする。</p> <p>◆各パートの役割を理解し、パートで協力して練習しようとしている。</p> |

展開

- 1) パートの役割を知って、パートを決めよう。
  - ①楽譜を提示してどこが主旋律か理解させる。
    - ・飾りの旋律（オブリガート）→リコーダー ・伴奏→木琴・鉄琴・オルガン
- 2) 範奏を鑑賞する。
  - ・どのように楽器で演奏しているか。 ・リズムパートの打楽器（大太鼓・小太鼓・シンバル）
- 3) 教科書旋律の各パート人数分け。（ ）は人数。
  - ①主旋律→鍵盤ハーモニカ（10） ②飾りの旋律→鉄琴（4）、リコーダー（9）
  - ③伴奏→木琴（4）、オルガン（6） ④打楽器→大太鼓、小太鼓、シンバル（各1）

\*打楽器希望が多い、鍵盤ハーモニカは低学年で使用するので希望者が少ない。

\*練習時間は約15分程度で次回の授業で主として練習する。

(3) 第3次（実施日 2016/11/25）

| 主な学習活動   | ●教師の働きかけ ◆評価   |
|--|--|
| <p>パートリーダーを中心にパート練習に取り組み、合奏する。」</p> <p>1) 茶色のこびんの曲構成について確認する。</p> <p>○主旋律（鍵盤ハーモニカ）</p> <p>○飾りの旋律（鉄琴・リコーダー）</p> <p>○伴奏（木琴・オルガン）</p> <p>○リズム伴奏（打楽器）</p> <p>2) オリジナルの合奏にしよう。</p> <p>○バランスのよい合奏をつくる。</p> <p>3) 合奏を工夫するためには？</p> <p>4) 教科書による合奏してみる。</p> <p>○合奏の楽しさを味わう。</p> <p>5) 合奏を評価する。</p> | <p>●パートごとに協力できるように、リーダーを中心に協力の振り返りをするようにする。</p> <p>◆自分のパートの階名やリズムを、意欲的に歌ったりリズム打ちをしたりしながら、練習に取り組んでいる。</p> |

展開

- 1) 茶色のこびんの曲構成について確認する。
  - ①曲の構成。
    - ・主旋律（鍵盤ハーモニカ） ・飾りの旋律（鉄琴、リコーダー） ・伴奏（木琴、オルガン）
    - ・リズム（大太鼓、小太鼓、シンバル）

\*児童で考えさせる。

2) オリジナルの合奏にしよう。

①児童の提案。

・旋律の高さ（オクターブ）を変える。 ・メロディー（主旋律）が大切。

3) 合奏を工夫するためには？（児童の意見を基に合奏を工夫する。）

①2回目以降のメロディーを他の楽器で変化をつける。

②伴奏の高さ（オクターブ）を変える。

③打楽器を加える。

④管楽器を加える。

4) 教科書による合奏してみる。

①各パートに分かれて練習。（ ）は人数。

\*打楽器は単純であるが人気である。鍵盤ハーモニカは2～3年生の楽器という認識があり、人気が無い。

②リコーダー（8）、鍵盤ハーモニカ（10）、オルガン（3）、ピアノ（1）、鉄琴（1）、木琴（1）、マリンバ（1）、大太鼓（1）、小太鼓（1）、シンバル（1）

\*リコーダーと鍵盤ハーモニカについては、その後の授業で他の楽器へ移動するなど減少する。

5) 合奏を評価する。

①1回目 メロディー（主旋律）が聞こえた。→他の各楽器は聞こえたか？

②2回目 各楽器の工夫→演奏しない時、リズムを取っていた。

③3回目 各パートリーダーが評価。

\*管楽器の導入は出来なかった。 \*次時に管楽器を導入することを予告する。

(4) 第4次（実施日 2016/11/29）

| 主な学習活動  | ●教師の働きかけ ◆評価  |
|---|---|
| <p>「さらに豊かなひびきにするための工夫をみんなで話し合い、『4年1組オリジナルの茶色のこびん』をつくる。」</p> <p>1) 管楽器、その他の打楽器を加える。</p> <p>○リズムを工夫する。</p> <p>○管楽器を入れる。</p> <p>○ピアノを入れる。</p> <p>2) 合奏しよう。</p> <p>○合奏の楽しさを味わう。</p> <p>3) 次回は細かいバランスを考える。曲を繰り返して変化をつける。</p> | <p>●どんな工夫をしたら、4年1組らしいかという観点で考えさせることで、オリジナルの工夫が出来るようにする。</p> <p>◆今の合奏を楽しみながら、さらなる工夫を考えようとしている。</p> |

展開

1) 管楽器、その他の打楽器を加える。

①各パートのバランスが崩れないように考える。

②タイミングがずれないように気を付ける。

2) 合奏しよう。（画像1、画像2）

①管楽器を加えた各パートの練習、15分実施。（楽器パート：楽譜2）

フルート（1）、クラリネット（3）、アルトサックス（1）、テナーサックス（1）、ホルン（1）、トランペット（3）

②各楽器の演奏については、クラリネットやトランペット等の楽器を増やす。

③高さ（オクターブ）を変えたり、曲の前半後半でパートを入れ替えて響きの変化をつける。

\*指導者は各パートを指導する。 \*打楽器担当児童の希望を聴き、リズムを組み立てる。

\*全体合奏を2回実施。各パートは熱心に取り組んだ。 \*各児童がモチベーションを持った、良い授業を展開した。

3) 次回は細かいバランスを考える。曲を繰り返して変化をつける。



画像1：リコーダー・鍵盤ハーモニカ練習



画像2：管楽器練習

(5) 第5次（実施日 2016/12/13）

| 主な学習活動  | ●教師の働きかけ ◆評価  |
|---|---|
| <p>「バランスに気をつけて、演奏順を話し合いながら合奏する。」</p> <p>1) 打楽器パートの編成。</p> <p>○管楽器と他の楽器のバランスを考える。</p> <p>2) 演奏順を工夫する。</p> <p>3) 各パートを練習する。</p> <p>4) 全体合奏を試みる。</p> <p>○合奏の楽しさを味わう。</p> | <p>●パートごとの役割や全体のバランスを考えさせることで、楽器の組み合わせや順番を工夫できるようにする。</p> <p>◆役割やバランスを感じながら、合奏することが出来る。</p> |

展開

1) 打楽器A・Bパートの編成。

- ・トライアングル
  - ・クラベス
  - ・タンブリン
  - ・ボンゴ
  - ・コンガ
  - ・シンバル
  - ・小太鼓
  - ・大太鼓
- (A)
- (B)

2) 演奏順を工夫する。(楽譜2)

①A ピアノ

②器楽A (教科書の楽器編成)+打楽器B  
(画像5)

③B オルガン (管楽器、打楽器担当の児童は移動する)

④器楽B (管楽器、打楽器以外の器楽担当児童)+茶色のこびん斉唱

⑤A ピアノ

⑥管楽器+打楽器A

楽譜1：打楽器パートのリズムパターン

\*打楽器パートのリズム指導は教師が担当する。

⑦Bオルガン

⑧器楽B + 管楽器 + 打楽器A (画像6)

3) 各パートを練習する。

\* 音色や音量のバランスを考えた様々な演奏の工夫と合奏をよりよくする表現の工夫。

4) 全体合奏をしてみる。

①主旋律と他のパートとのバランスや音色の対比などに気を付けさせる。

②お互いにきき合いながら合奏する。

\* 児童の感想

- ・初めての合奏はスムーズに進行しなかったが、途中止まりながらも最後まで演奏することが出来た。
- ・最後の演奏の響きの重なりがよかった。
- ・次の演奏のタイミングなど流れがはっきりしなかった、練習が必要。
- ・管楽器と打楽器の演奏で打楽器とのバランスが悪いので打楽器がある時と無い時を演奏してバランスを考える。

5) 次時の予告

\* 次回はさらに練習して、4年1組クラス担任の前で発表する。

(6) 第6次 (実施日 2016/12/20)



画像3：打楽器パート練習

| 主な学習活動   | ●教師の働きかけ ◆評価   |
|--|--|
| <p>「まとめの合奏をして自分たちの演奏を楽しみ、4年1組のオリジナルの工夫を仕上げよう。」</p> <p>1) 本時の確認をする。</p> <p>2) 演奏体型に移動する。</p> <p>3) 学級担任に練習成果を発表する。</p> <p>○担任を招待してまとめの発表会をする。</p> | <p>●担任を招待することで意欲と緊張感を持ってまとめの演奏に取り組むことが出来るようにする。</p> <p>◆パートや全体で合奏を楽しむことが出来る。</p> |

展開

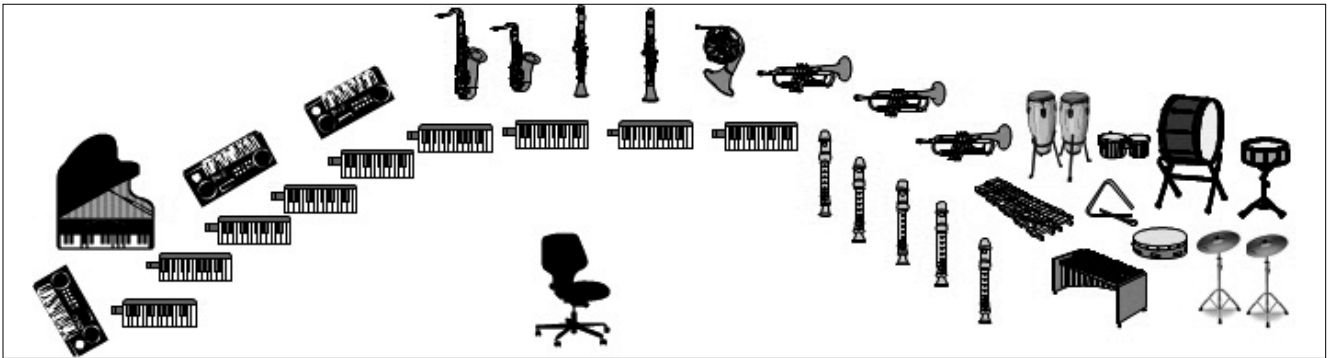
1) 本時の確認をする。

- ①2学期最後の授業であること。
- ②「茶色のこびん」演奏について、楽器及び演奏の確認。
  - ・管楽器、打楽器、歌を入れた。
  - ・間奏も工夫して、これらを組み合わせて、さらに盛り上がる合奏にする。
  - ・演奏と共に体でリズムを取り、「動き」を入れてみる。
  - ・「4年1組のオリジナルの工夫を仕上げよう。」という目標を確認する。

2) 演奏体型に移動する。(画像4)

①各パートで練習 (10分)





画像4：第6次合奏の楽器配置イメージ

\*フルート、クラリネット各1名は合奏当日欠席

教科書 ● P.42

**茶色の小びん**

日本語詞 作曲 日本橋 美鳳明子 / ジョセフ ウィナー / 浦田健次郎

編曲 田中 P.23・24

♩ = 132~144

AS Tp  $mf$  1 おがわの 2 ちやいろの

Fl Cl  $mf$

Hr Tp  $mf$

TS  $mf$  1 2

**A ピアノ** (オクターブ低く)

2 4 2 1 3 2 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102 103 104 105 106 107 108 109 110 111 112 113 114 115 116 117 118 119 120 121 122 123 124 125 126 127 128 129 130 131 132 133 134 135 136 137 138 139 140 141 142 143 144 145 146 147 148 149 150 151 152 153 154 155 156 157 158 159 160 161 162 163 164 165 166 167 168 169 170 171 172 173 174 175 176 177 178 179 180 181 182 183 184 185 186 187 188 189 190 191 192 193 194 195 196 197 198 199 200 201 202 203 204 205 206 207 208 209 210 211 212 213 214 215 216 217 218 219 220 221 222 223 224 225 226 227 228 229 230 231 232 233 234 235 236 237 238 239 240 241 242 243 244 245 246 247 248 249 250 251 252 253 254 255 256 257 258 259 260 261 262 263 264 265 266 267 268 269 270 271 272 273 274 275 276 277 278 279 280 281 282 283 284 285 286 287 288 289 290 291 292 293 294 295 296 297 298 299 300 301 302 303 304 305 306 307 308 309 310 311 312 313 314 315 316 317 318 319 320 321 322 323 324 325 326 327 328 329 330 331 332 333 334 335 336 337 338 339 340 341 342 343 344 345 346 347 348 349 350 351 352 353 354 355 356 357 358 359 360 361 362 363 364 365 366 367 368 369 370 371 372 373 374 375 376 377 378 379 380 381 382 383 384 385 386 387 388 389 390 391 392 393 394 395 396 397 398 399 400 401 402 403 404 405 406 407 408 409 410 411 412 413 414 415 416 417 418 419 420 421 422 423 424 425 426 427 428 429 430 431 432 433 434 435 436 437 438 439 440 441 442 443 444 445 446 447 448 449 450 451 452 453 454 455 456 457 458 459 460 461 462 463 464 465 466 467 468 469 470 471 472 473 474 475 476 477 478 479 480 481 482 483 484 485 486 487 488 489 490 491 492 493 494 495 496 497 498 499 500 501 502 503 504 505 506 507 508 509 510 511 512 513 514 515 516 517 518 519 520 521 522 523 524 525 526 527 528 529 530 531 532 533 534 535 536 537 538 539 540 541 542 543 544 545 546 547 548 549 550 551 552 553 554 555 556 557 558 559 560 561 562 563 564 565 566 567 568 569 570 571 572 573 574 575 576 577 578 579 580 581 582 583 584 585 586 587 588 589 590 591 592 593 594 595 596 597 598 599 600 601 602 603 604 605 606 607 608 609 610 611 612 613 614 615 616 617 618 619 620 621 622 623 624 625 626 627 628 629 630 631 632 633 634 635 636 637 638 639 640 641 642 643 644 645 646 647 648 649 650 651 652 653 654 655 656 657 658 659 660 661 662 663 664 665 666 667 668 669 670 671 672 673 674 675 676 677 678 679 680 681 682 683 684 685 686 687 688 689 690 691 692 693 694 695 696 697 698 699 700 701 702 703 704 705 706 707 708 709 710 711 712 713 714 715 716 717 718 719 720 721 722 723 724 725 726 727 728 729 730 731 732 733 734 735 736 737 738 739 740 741 742 743 744 745 746 747 748 749 750 751 752 753 754 755 756 757 758 759 760 761 762 763 764 765 766 767 768 769 770 771 772 773 774 775 776 777 778 779 780 781 782 783 784 785 786 787 788 789 790 791 792 793 794 795 796 797 798 799 800 801 802 803 804 805 806 807 808 809 810 811 812 813 814 815 816 817 818 819 820 821 822 823 824 825 826 827 828 829 830 831 832 833 834 835 836 837 838 839 840 841 842 843 844 845 846 847 848 849 850 851 852 853 854 855 856 857 858 859 860 861 862 863 864 865 866 867 868 869 870 871 872 873 874 875 876 877 878 879 880 881 882 883 884 885 886 887 888 889 890 891 892 893 894 895 896 897 898 899 900 901 902 903 904 905 906 907 908 909 910 911 912 913 914 915 916 917 918 919 920 921 922 923 924 925 926 927 928 929 930 931 932 933 934 935 936 937 938 939 940 941 942 943 944 945 946 947 948 949 950 951 952 953 954 955 956 957 958 959 960 961 962 963 964 965 966 967 968 969 970 971 972 973 974 975 976 977 978 979 980 981 982 9

楽譜 2：管楽器及びその他の楽器パート配置

3) 学級担任に練習成果を発表する。(画像5・6)



画像5：器楽合奏演奏



画像6：全楽器演奏

#### IV. 終了後の児童アンケート

第6次の授業終了後4年1組にアンケート調査を実施した。男子20名中17名、女子19名中17名の回答があった。その集計内容と主な感想は以下の通りである。なお、児童の回答についての表現は漢字表現をのぞき、ほとんど原文通りである。アンケート1)では演奏が技術について感想を求めたが、約70% (23名/34名)の児童がうまく演奏出来たと答えた。(図1)アンケート3)では演奏した達成感について、約87% (29名/34名)の児童が大変楽しかったと答えた。(図2)児童の回答からは、今回の音楽授業について児童が興味や関心を持って主体的に参加したことがわかる。そして、回答した児童の34名(男子17名、女子17名)中1～2名の児童が普通または楽しくなかったと答えているが、自分なりにしっかり演奏できなかったことを評価したと考えられる。また、うまく演奏できなかった児童は周囲と比較して自己の演奏を評価している。教師はうまく出来なかった児童が音楽に対する興味関心を失わないようにしなければならないが、器楽指導は各楽器ごとの指導に時間が必要であることに注意し、練習に対して児童が自発的に取り組むことを促す声かけや励まし方などに配慮する必要がある。音楽授業で器楽合奏を成功させるには、児童が相互に教え合うことが不可欠であり、アンケートの感想からは、クラスで高い満足度や達成感があったことから今回の器楽授業により、クラスの連携がさらに深まったことが推察できる。以上を総合すると4年1組のクラス全体が高いモチベーションを保ち、周囲と連携してオリジナルの演奏を成功させようとしており、この授業の目的は達成されたと考える。

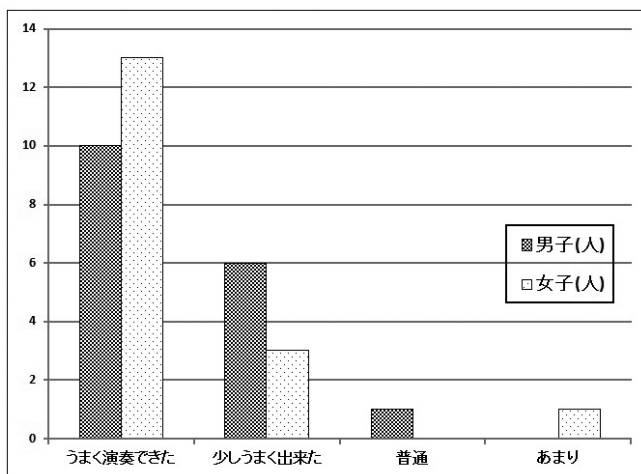


図1：うまく演奏できましたか。

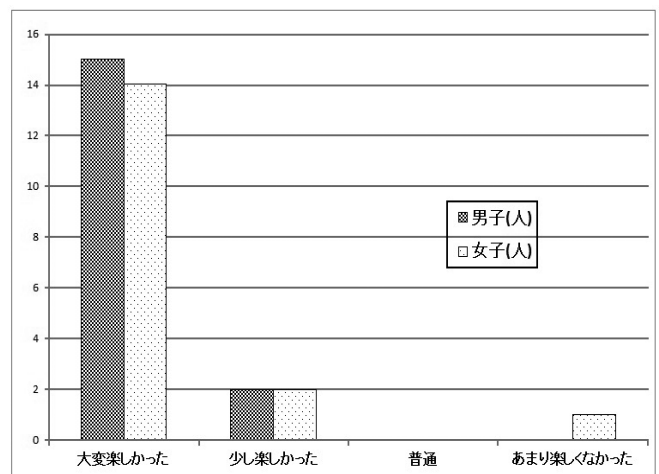


図2：演奏は楽しかったですか。

【アンケート内容】

1) うまく演奏できましたか。(図1)

2) ～6時間をふり返って～4年1組オリジナル「茶色のこびん」をつくりあげて「うまくいったな」「ここがよかったな」ということを教えてください。

◆自分について

○「うまくできた」、「少しうまくできた」と回答した児童

**男子児童**・間違えずに演奏出来た。・間違えても演奏出来た。・音の高さ(オクターブ)を工夫した。・リズムが出来た。・歌ったところがよかった。・最初はうまく出来なかったが最後はうまく出来た。

**女子児童**・間違えずに出来た。・リズムに乗って横に揺れて演奏が出来た。リズムに乗れた。・歌もちゃんと歌えた。・演奏を工夫出来た。・練習を生かした。・練習よりうまく出来た。

○「普通」、「あまり」と回答した児童

**男子児童**・あまりしっかり出来なかった。

**女子児童**・最初だけ出来た。

◆クラス全体について

○「うまくできた」、「少しうまくできた」と回答した児童

**男子児童**・最初はうまく出来なかったが、少しうまく出来た。・とても良かった。リズムと揺れて楽しく歌った。・クラス全員のいきがそろって良かった。・音の重なりが出来ていた。・全体でアイデアをたくさん出して曲がまとまって演奏できた。・タイミングが合っていて、バランスも良かった。・笑顔で楽しめた。

**女子児童**・ちょっと出来た。・緊張している人もいたが上手に出来た。・歌を入れるなどの工夫が出来た。・いろんな楽器で演奏して面白かった。楽しそうに演奏していた。・体が揺れて良かった。・歌もちゃんと歌えた。・演奏工夫できて、練習を活かした。・全体的なスピードが遅くなった。・リズム良く楽しそうに演奏していた。・良く演奏出来たと思った。

○「普通」、「あまり」と回答した児童

**男子児童**・ちゃんとしっかり演奏が出来た。

**女子児童**・メロディーがしっかりしていて良かった。

2) 「もう少しだな」「もっとがんばりたいな」ということを教えてください。

**男子児童**・音が重なるのを頑張りたい。・最後がもう少しだった。・演奏がうまくなりたい。・木琴のドレミを覚えたい。・リズムが取ればよかった。・他の楽器と合わせる。・リズムに乗って楽しく演奏したい。・かっこいい曲にしたい。・演奏のタイミングが悪かった。・演奏を間違えた。

**女子児童**・笑顔で出来たらよかった。・演奏を間違えた。・自分が歌に入るときに遅れた。・管楽器を楽しく演奏したい。・リズム良く演奏する。・恥ずかしがらずに演奏する。・音をきれいに演奏する。・演奏の準備が遅くなったこと。・演奏途中での移動が焦ってしまった。・聴いてる人に「良かった」「すごいね」と言われるように頑張りたい。・最初よりとてもうまく出来た。・途中から(旋律を)覚えていなかった。

3) 演奏は楽しかったですか。(図2)

4) 4年1組のオリジナルの「茶色のこびん」を演奏してどうでしたか?

○「大変楽しかった」、「少し楽しかった」と回答した児童

**男子児童**・演奏を楽しくできた。・みんなと協力して茶色のこびんを弾けた。・いろいろな楽器を使い工夫して演奏出来た。・自分で曲を作るという新鮮さがあった。・明るく元気に出来た。・体を揺らしたり、リズムが出来た。・先生に聞いてもらって嬉しかった。・また演奏したい。・楽器にたくさんふれ合えた。・クラス全体で仲良く出来た。・最初が難しかった。

**女子児童**・みんなといろいろ工夫して最後にいい演奏が出来た。・友達と協力した。・揺れながら楽しく管楽器を演奏出来た。・間違えたところは友達に聴いたりして協力が出来た。・いろいろな楽器を入れてみんなも楽しんだ。・練習の時よりも上手に出来た。・クラスで仲良く出来た。みんな協力してアイデアを出せた。・楽器のバランスや組み合わせが良かった。・みんな楽しそうだった。・リズムや音が合っていた。・みんなオリジナルの茶色のこびんを楽しく出来た。・4年1組でみんなと演奏することが好きだ。

○「あまり楽しくなかった」と回答した児童

**女子児童**・最初は出来たが、あとから（記憶して演奏）出来なかった。

## おわりに

今回の授業は音楽授業の器楽分野において、教科書を基にしたオリジナルの合奏を工夫して児童の表現力を伸ばすことを意図した授業であった。これら一連の音楽授業は、問題解決学習、体験学習、グループワーク等のアクティブラーニング型授業であり、児童のモチベーションを基にした学習としては有効な授業法である。教科書ではリコーダーや鍵盤ハーモニカを主体に合奏をするが、今回のオリジナルの合奏ではこれらに加えて、管楽器やその他の打楽器を加えて多様な楽器を使用するなど、児童の興味や関心を引き出すことの出来た授業であった。また、楽器の種類が増えることにより、児童がさらに小グループ及び単独の演奏を担当することで、演奏の優劣を競うことよりも児童相互が教え合い協力して合奏を作り上げる効果があった。このことは、アンケートの「協力」「クラス全体」「友達」という言葉の表出がこれらの効果を示している。今回はこの単元の標準音楽授業時間より3時限ほど余分の時間を費やしたが、その他の音楽授業より効果のあるアクティブラーニング型授業であったと考える。音楽教科指導担当教諭の授業実施後では、「器楽合奏を工夫する音楽授業はこれまで小学校高学年では実施してきたが、4学年で実施したのは初めてであり、児童の興味関心が高かった。実際には演奏能力が未熟である児童もいたが、今回は演奏出来たと答えるなど、授業へ積極的に参加していた。4年生でも今後はこのような器楽授業が実施できるという自信になった。」という感想であった。今回の音楽授業により、児童は曲想を感じ取る力や表現の技能について、より積極的に学習するモチベーションが増し、楽器の特性や強弱やテンポや旋律の演奏など、音楽の要素に対する感受性も鋭くなったことが考えられる。児童は今回の音楽授業で歌唱にも積極的な姿が見られたが、器楽は多様な表現が出来ることが児童にとってさらに魅力的なコンテンツである。一方、器楽授業は楽器の種類が増加に比例して指導時間が増加することが難しい授業でもある。特に授業実施者は1時限45分で教科書やその他の歌唱指導、授業の導入で毎回約20分ほどを使用し、実際の器楽授業実施は25分程度で、合奏準備の時間を考えるとリハーサル時間はさらに短い。今回の授業では、これらを考慮して汎用的器楽授業法に繋げるために、教科書の旋律を加工せず使用して教師の負担を軽減した。授業における教師の負担軽減については、教師だけではなく、各楽器の児童リーダーによる指導、助言も必要である。これには、各楽器が得意な児童の積極的な関与を利用して指導する方法を考えることが必要であり、このことが器楽指導がスムーズに進行し、授業全体を成功に導く一方法であろう。もちろん、これらの授業計画には、器楽指導の楽器編成や楽譜のパート分けなど、事前の準備が必要であるが、教師にとって児童の達成感に繋がる器楽合奏の指導経験はその後の音楽授業に必ず生きてくるであろう。

## 謝意

今回の授業研究の実施に際しては学校長をはじめとして、ご協力をいただいた鹿児島市立山下小学校関係者の皆様に深く感謝いたします。

## 注

1. 山崎正彦・佐野 靖『教職歴1～10年程度の教員に対するアンケートから見えてくるもの』（2010）音楽教育 Vent Vol.17 p.27
2. 『小学生の音楽4』指導書 教育芸術社 p.70

## 引用・参考文献

1. 新村元植・福留健之『鹿児島市立小学校における管楽器教育の可能性』（2006）鹿児島女子短期大学南九州地域科学研究所『所報』第22号 pp.37-51
2. 新村元植・福留健之『鹿児島市立小学校における管楽器教育の可能性（2）』（2008）鹿児島女子短期大学南九州地域科学研究所『所報』第24号 pp.41-64
3. 西田治『苦手意識を抱かせない器楽導入指導の在り方 ―離島小規模小学校における実践を通して―』（2009）長崎大学教育実践総合センター紀要8 pp.133-146
4. 音楽の授業づくり研究会『音楽の授業づくり』（2010）教育芸術社

小学校における児童の表現力を豊かにする効果的な音楽授業法の研究

5. 文部科学省『小学校学習指導要領』（2010）教育芸術社
6. 西村敬子 他『音楽活動の基礎的な能力を身に付ける学習指導－表現の能力を培う授業づくりを通して－』（2010）福岡市教育センター音楽科研究室平成20年度研究紀要第796号 pp. 音 1 - 音29
7. 新村元植・上野久美『感情表現を陶冶する効果的な音楽授業の試み』（2011）鹿児島女子短期大学南九州地域科学研究所『所報』第27号 pp.35-50

（平成29年 1 月18日 受理）